

主な記事

2面・3面:新春特別対談 タクシー政策議連・広田事務局長と溝上委員長「タクシーの価値ますます重要」
4面:組合員の手で再建 秋田・あさひタクシーが営業開始

全自交しんぶん

第1268号

1月1日

(有料制1092号)

2026年/令和8年

THE ZENJKO
全自交しんぶん

発行=全国自動車交通労働組合連合会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目7番9号
電話=03東京(3408)0875
FAX=03東京(3497)0107
zenjiko-roren@zenjiko.or.jp
発行責任者=本田 有
原則毎月15日発行(月1回)
……購読料 1ヶ月 70円……

謹賀新年

全自交は時代の先頭で闘う

新年明けましておめでとうございます。全自交労連中央執行委員長の構成です。組合員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

旧年中は、埼玉県八潮市での道路陥没事故や、過去最高レベルの能被害など、日常が足下から崩れるような不安を感じる1年となり、トランプ大統領の再就任や、自民・維新連立政権の誕生によって政治情勢も不安定さを増しています。一方で、戦後80年、阪神淡路大震災から30年の節目に、改めて命の大切さを見つめ直す1年ともなりました。

我々が働くハイタク産業においても、「万博ライドシェア」の実施や、日本維新の会による「ライドシェア新法案」の国会提出などの攻勢にさらされる1年間であります。しかし、大阪では業界労使の奮闘により移動需要をハイタクがまかなって万博ライドシェアが必要ないことを証明し、全国的にも「タクシー不足」と呼ばれた状況を改善することで、ライドシェア解禁派を押し返すことに成功しました。まさにハイタク業界労使の底力、エッセンシャルワーカーであるタクシードライバーの使命と矜持を社会に示す1年となりました。

本年も全自交労連は「ライドシェア完全解禁阻止」の運動に全力で取り組みます。引き続き、移動困難者ははじめとした全てのお客さまに安全・安心・丁寧な輸送を提供し、世界一の日本のタクシーの品質を維持しながら供給の安定に努めることで、我々の生活とお客さまの安全、地域公共交通の持続性を守り抜かねばなりません。



新年のごあいさつ
溝上 泰央 中央執行委員長

我々の底力 示した1年

一方、地域間格差は深刻で、職場が倒産し労働者自主管理で雇用を守った全自交の仲間もいます。そもそも事業採算性の厳しい地域では、民間事業者の努力にも限界があります。「地域公共交通であり、社会资本・公共財であるタクシー」を国や自治体が責任をもつて財政的に支える持続可能な政策が今こそ必要です。

昨年7月の第27回参議院選挙では、皆様のご協力により、全自交が推薦する岸真紀子候補を当選させることができました。しかし、誠心誠意働いていた森屋隆さんの議席を失ったことは痛恨の極みであり、我々はこの悔しさを噛みしめ、来る国政選挙では立憲民主党を中心とした政権交代を実現し、今度こそ我々の手でタクシー事業法を成立させましょう。

これからも全自交労連は、ハイヤー・タクシー・自動車教習所の産業別労働組合として、時代の先頭に立ち、運動を展開して参ります。本年も組合員の皆様の無事故・無違反と、ご健勝・ご多幸を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

同時に、白タクや、都市型ハイヤーによる客引き・名義貸し等の行為には毅然と対処し、根絶を求める運動します。交通空白を解消するために、ハイタク業界として自治体との協力・協働を推し進めることが必要です。当該地域にハイタク事業者が存在しないようなケースでは自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)の運行に関与・協力することも検討しなくてはなりません。他方、日本版ライドシェアについては、不要なことが明らかとなつた地域では早期に終了を求めます。

ハイタク自教の職業の魅力を高めるためには賃金格差を一刻も早く是正しなくてはなりません。本年には多くの地域でタクシー運賃改定が実施される見通しであり、迎車料金の新たな設定や、冬季割増運賃の適用拡大にも道が開けるなど、労働条件改善のための価格転嫁が進んでいます。この原資を適切に労働者に分配させることで、物価高に負けずエッセンシャルワーカーに相応しい賃金・労働条件を確立していきましょう。



交運労協 政策議員懇談会



辻元議員が事務局長に

ライドシェア問題 討議

交運労協の政策推進議員懇談会が11月20日に開かれ、副会長の辻元清美参院議員が事務局長に就任。辻元議員は「議員懇は、職場で働く仲間の皆さんの要請にしっかりと応えられるよう取り組む」と表明しました。

ライドシェアや白タク問題が話題となり、逢坂誠衆院議員は「ニーズや現状に沿わないライドシェアは、交運労協と共に丁寧に対応する」と強調し、山花郁夫衆院議員は「企業は日本版ライドシェアへの投資を回収できず、容易に撤退の判断をおろす」と回答し、改めて交通空白

ができるのではないか」と今後を懸念。小宮山泰子衆院議員は白タク問題について「正規の事業者への営業妨害や、利用者の安全を危惧する」と述べました。



飛鳥労組 東京の仲間が傍聴支援

東京地連の飛鳥ファミリー労働組合は、運賃改定のタイミングで強行された賃金改悪の撤回を求め、裁判を闘っています。12月8日に東京地裁で行われた第11回口頭弁論には東京地連の仲間多数が傍聴支援に詰めかけました(写真)。会社側の主張は二軒三転していますが、来年3月には証人尋問も予定され、結審の日は近いと見込まれます。勝利に向けたいと思います。



12月5日、秋田市で「あさひタクシー」が営業を再開しました。5月に発生した「あさひ自動車」の自己破産から7ヶ月、労働者みずからが経営を担う「自主経営」によつて職場の再建にこぎつけ、再び住民の足として活躍します。元の会社が保有していたタクシー25台を、全自交秋田地

連の自主経営の先輩会社である大館・花矢交通(大館市)が譲り受け、大館・花矢交通として、元の従業員を中心とした37人を雇用。全従業員が全自交秋田地連「あさひタクシー労働組合」の組合員となる

開業の朝、中心的役割を担つてきた、あさひタクシー労組の進藤誠輝委員長は「一難去つてまた一難の状況に詰めかけました。全自交の全国の仲間も支援

金を危惧する」と述べました。4日には「感謝の集い」が開かれ、櫻田憂子秋田県議や連合秋田など、再建を支援した関係者が集いました。



20回目の街宣



全自交京都地連(櫻井邦広委員長)は11月28日、京都市個人タクシーグループ協議会、自交総連京都地連と共に、JR京都駅烏丸口前四条烏丸交差点でライドシェア完全解禁阻止の街頭宣伝活動を行いました。街宣行動は今回で20回目を数え、全自交からは櫻井委員長と、成田次雄・関西地連書記長(写真左)が参加しました。

東北運輸局に要請

東北運輸局は12月12日、たまたま運賃改定後の労働会を実施。その場で全自交青森地連の後藤勝委員長が、青森県沖地震で被害を受けた八戸市の早期復興を要請しました。

全自交東北地連の高橋学委員長は、あさひタクシーの再建に関わる、東北運輸局・秋田運輸支局の迅速な対応に感謝するとともに、構造的に傷んでいる地域公共交通への支援を求めました。



震災復旧を訴える青森の後藤委員長

全自交京都地連(櫻井邦広委員長)

12月5日、秋田市で「あさひタクシー」が営業を再開しました。5月に発生した「あさひ自動車」の自己破産から7ヶ月、労働者みずからが経営を担う「自主経営」によつて職場の再建にこぎつけ、再び住民の足として活躍します。元の会社が保有していたタクシー25台を、全自交秋田地連の自主経営の先輩会社である大館・花矢交通(大館市)が譲り受け、大館・花矢交通として、元の従業員を中心とした37人を雇用。全従業員が全自交秋田地連「あさひタクシー労働組合」の組合員となる開業の朝、中心的役割を担つてきた、あさひタクシー労組の進藤誠輝委員長は「一難去つてまた一難の状況に詰めかけました。全自交の全国の仲間も支援

金を危惧する」と述べました。4日には「感謝の集い」が開かれ、櫻田憂子秋田県議や連合秋田など、再建を支援した関係者が集いました。

だつたが、ここまで来ること

ができ大変うれしく思う』地域に貢献したい」とあいさつ。全自交労連本部の野尻雅人副中央執行委員長や、再建

が譲り受け、大館・花矢交通が譲り受けた「あさひタクシー営業所」の「あさひタクシー営業所」顔で出庫する仲間を見送りました。慣れ親しんできた「あさひ」の行灯の復活には地域

域に貢献したい」とあいさつ。全自交労連本部の野尻雅人副中央執行委員長や、再建